

協議事項（1）

「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における平成31年度実施計画について

このことについて、平成31年1月9日付け水産第1446号・千水審第8号で千葉県水産振興審議会会長から、別添のとおり付議されましたので、審議されたい。

平成31年1月28日

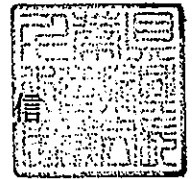
千葉県水産振興審議会栽培漁業・資源管理部会

部会長代理 佐藤 光男

水産第1446号
千水審第8号
平成31年1月9日

千葉県水産振興審議会
栽培漁業・資源管理部会長 山崎英夫 様

千葉県水産振興審議会
会長 坂本雅



「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における平成31年度実施計画について（協議）

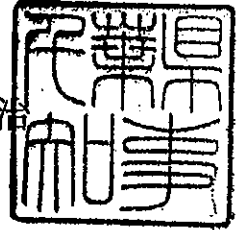
平成31年1月9日付け漁資第593号で千葉県知事から協議のあった標記について、千葉県水産振興審議会部会設置及び議事運営に関する要領第4条の規定により、貴部会に付議しますので、よろしく御審議願います。



漁資第593号
平成31年1月9日

千葉県水産振興審議会長 様

千葉県知事 鈴木 栄浩



「水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画」における平成31年度実施計画について（協議）

このことについて、別添のとおり策定したいので、水産動物の種苗の生産及び放流並びに水産動物の育成に関する基本計画 八に基づき協議します。

水産動物の種苗の生産、放流及びその育成に関する平成31年度計画について

①放流計画

対象魚種	30年度計画 (大きさ)	31年度計画 (大きさ)	放流海域	33年度目標放流量 (第7次基本計画)
まだい	1,000千尾 (60 mm)	1,000千尾 (60 mm)	全 県	1,000千尾 (60 mm)
ひらめ	940千尾 (80 mm)	940千尾 (80 mm)	全 県	940千尾 (80 mm)
まこがれい	460千尾 (40 mm)	460千尾 (40 mm)	東京湾	460千尾 (40 mm)
あわび	1,600千個 (25 mm)	1,600千個 (25 mm)	全 県	1,600千個 (25 mm)
くるまえび	6,000千尾 (30 mm)	6,000千尾 (30 mm)	東京湾	6,000千尾 (30 mm)

②平成31年度 技術開発計画

ア 種苗生産

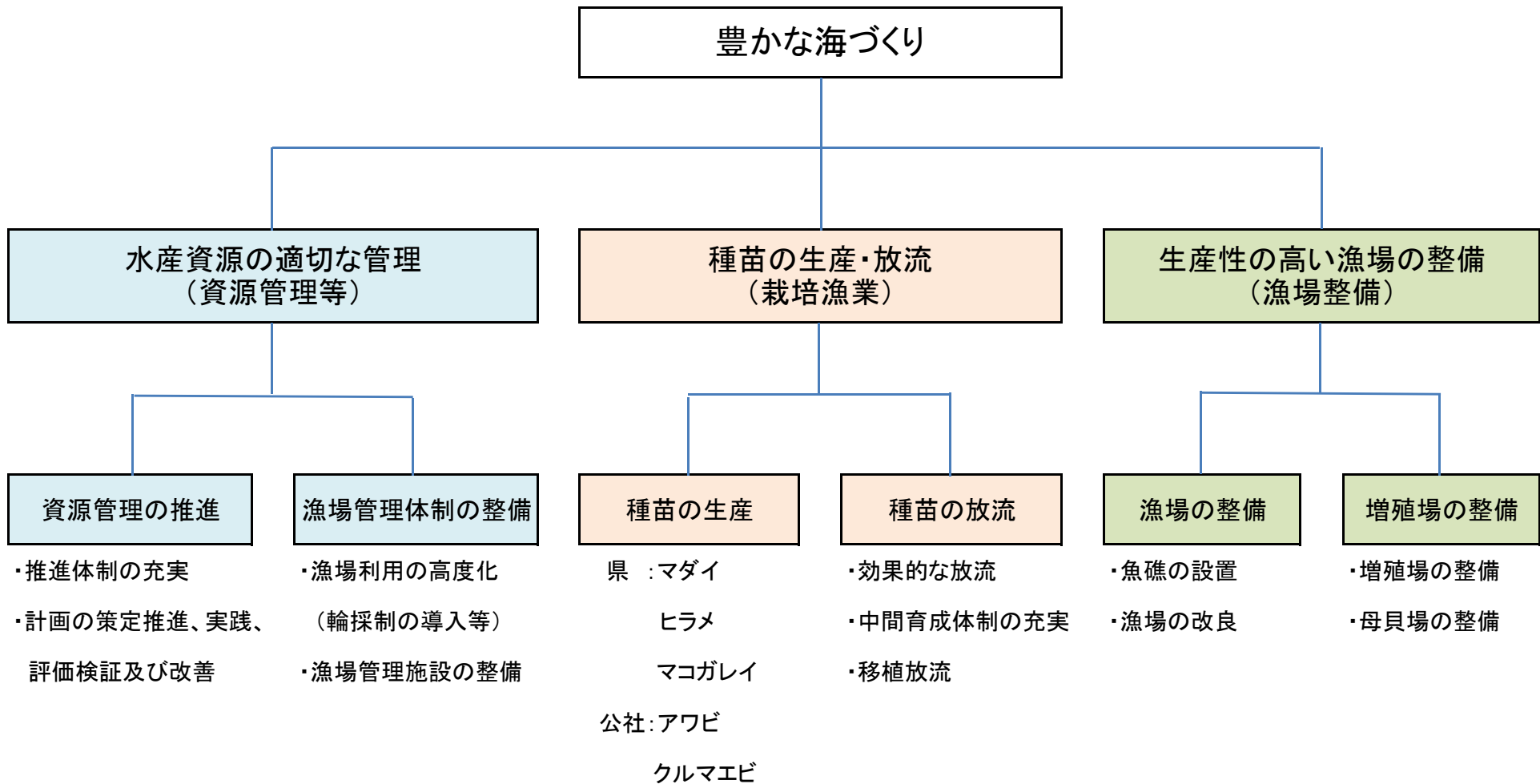
対象魚種	実施機関	技術開発上の問題点	主に取り組む課題
まだい	水産総合 研究セン ター	健苗の安定生産	・初期飼育における大量斃死対策として、過酸化水素浴及び流水洗浄によるワムシの保菌数削減技術の開発に引き続き取り組む。 (5～7月)
ひらめ		天然親魚の養成技術の確立	・種苗生産に使用する受精卵の安定確保のため、引き続き自然産卵を誘因する飼育条件(水温、日照、餌料条件等)の検討を行う。 (3～7月)
		餌料及び育成環境による体色異常魚の出現防止	・飼育初期の低水温下(15℃)飼育が黒化率の低減に効果的との知見から、引き続きその影響について検討を行う。(3～7月)

まこがれい		年内採卵に向けた天然親魚の成熟技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> 天然稚魚のサイズに劣らない放流種苗を生産するため、早期（年内）採卵に向けた成熟親魚の安定確保に取り組む。（12～6月）
		異形魚の出現防止	<ul style="list-style-type: none"> これまでの知見を踏まえ、H30は緑色LEDによる尾鰭欠損魚の発生防除効果を実証するため、生産に即した方式での試験に取り組む。（12～6月）
あわび	水産総合研究センター	マダカアワビの種苗生産技術の円滑な移転	<ul style="list-style-type: none"> 疾病防除のための改良技術の検証、稚貝飼育における紫外線照射海水の使用（周年） さらなる省力化を目的とした飼育方法の改良について検討を進める。（周年）
	公益財団法人千葉県水産振興公社	付着板飼育における安定的な育成方法の改良 剥離直後と水温上昇期のへい死対策	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き付着板飼育における安定的な育成方法を検討（10～3月） 特に、高水温期の飼料種類や給餌方法を検討（5～9月）
くるまえば		安定生産及び早期採卵に向けた種苗生産体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き安定生産・早期採卵に向けた種苗生産体制を整備する。（4～9月）（親エビの確保、防疫対策の徹底） 県内産親エビ漁獲情報の収集及び他県産親エビの入手可否の検討を継続
あさり		天然採苗による種苗の大量確保技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> 網袋による中間育成技術の開発 干潟域：収集した知見により生産技術を評価する。 沖合域：過去の試験結果をもとに網袋設置による生産規模試験を実施し、生産技術を評価する。（周年）
はまぐり	水産総合研究センター	着底期以降の稚貝の飼育技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> 量産化に向けた適正な飼育餌料、飼育密度、作業方法等の検討を行う。（6～3月）
		中間育成技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> 天然海域（干潟域）での春夏季中間育成技術の開発を行う。（5～3月）
ばい		種苗生産技術の導入及び量産技術の開発	<ul style="list-style-type: none"> 量産技術開発については一時終了し、技術の指導に向けた整理を行う。（周年）

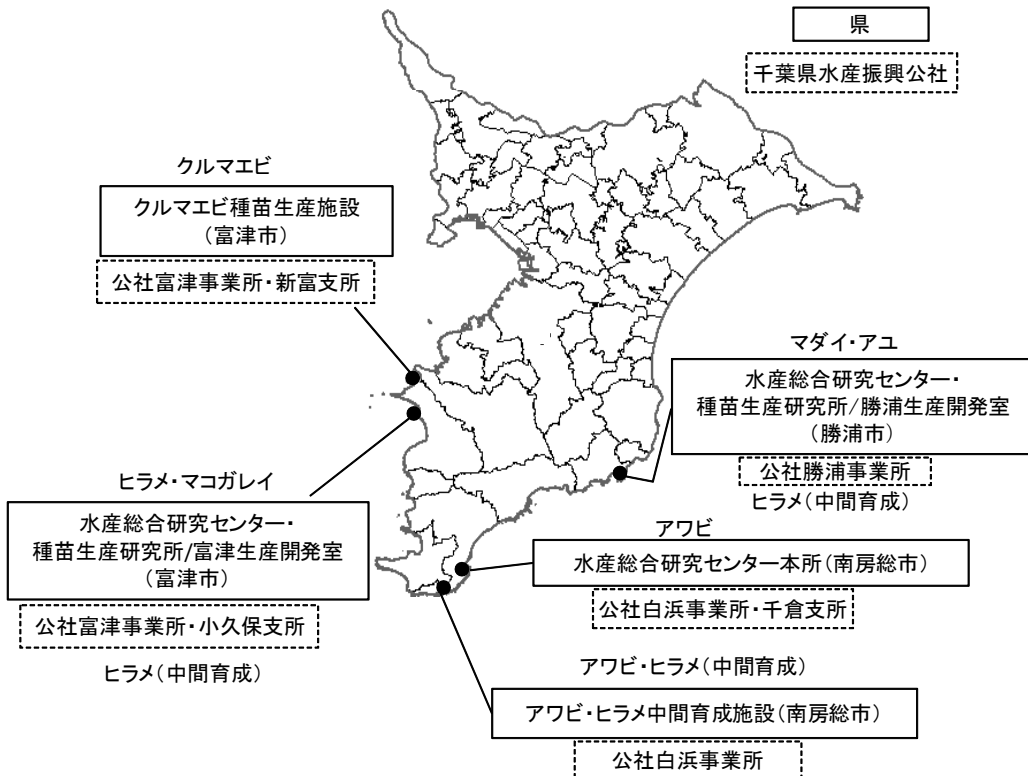
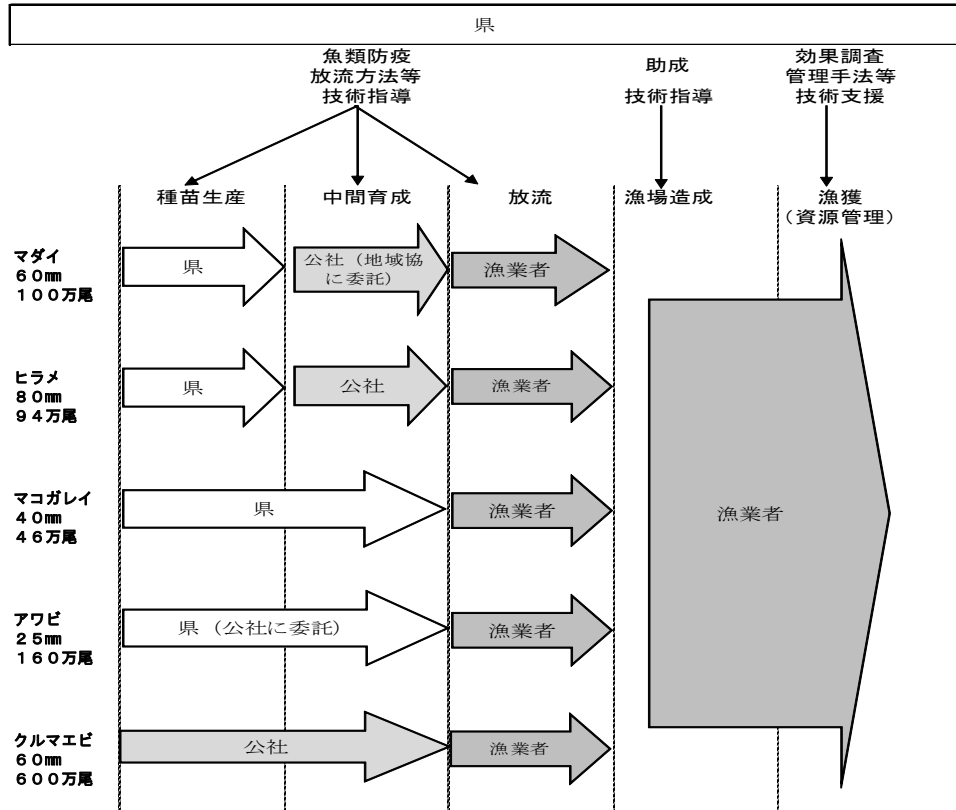
イ 放流調査

対象魚種	調査内容	計 画 の 概 要
まだい	放 流 効 果	・市場調査及び放流効果の解析
ひらめ	放 流 効 果	・市場調査及び放流効果の解析
まこがれい	放流技術開発	・生態的知見に関する調査 ・尾びれ鰭条屈曲を指標とした混入率調査及び放流効果の解析 ・マコガレイの資源生態に基づく深場放流の有効性の検証
あわび	放 流 効 果	・一般漁場及び造成漁場（放流漁場）における回収状況の把握 ・輪採方式における回収率の変動要因の解明及び効果的な放流・漁場管理技術の開発
とらふぐ	放流技術開発	・放流魚の移動・分散の把握 ・有機酸標識（全長 50mm、2 万尾）による放流効果調査

豊かな海づくりへの取組



千葉県の栽培漁業推進体制の概要



種苗生産施設一覧